## 「ヨナ書」について

(連講の間、これを聖書に挟んで参照ください)

## A. ヨナという人物

- 1. ヨナは、BC8 世紀前半に生きたイスラエルの預言者で、名前の意味は「鳩」。ガリラヤのガテ・ヘフェル出身。
- 2. ヨナの時代:アッシリヤは征服の矛先を西に向け、アラムを破り、イスラエル王ヨアシを服 従させた。「反アッシリヤ」は当時の世論であった。
- 3. ヨナの預言:ヨナが「政治的預言者」として、アッシリヤの首都二ネベの滅亡を願ったのは、 人間的に言えば当然であった。更にヨナは、イスラエルの領土回復を予言したが、ヤラベア ム2世(8世紀中)時代に成就した(II列王 14:25)。

## B. ヨナ書とは、

- 1. 何かの文書の一部として書かれた
- 2. (他の預言書に比べて)預言の内容よりも預言者自身に焦点を当て、彼の悔い改めの気持ちを 表わしている
- 3. 著者は、ヨナ自身または、ヨナの経験を元にして書いた人
- 4. 新約聖書に数多く引用されている (マタイ12:39, 40, 41, 16:4、ルカ11:29, 30, 32)

## C. ヨナ書の内容

1章: 備え給う神

1. 御顔を避けるヨナ(1-3節)

2. 大嵐に遭遇(4-10節)

3. 責任を取るヨナ(11-15節)

4. 神は備え給う(16-17節)

2章: 答え給う神

1. 魚腹から祈る(1節、2節a)

2. 神を捉える祈り(2b-9節)

3. 神の答え(10節) 1章: 備え給う神

3章:働き給う神

1. 二度目のチャンス (1-3節)

2. リバイバルの要因(4-9節)

3. 神の「悔い改め」(10節)

4章:痛み給う神

1. ヨナの抗議(1-4節)

2. とうごまのエピソード(5-8節)

3. 神の痛み(9-11節)

中心聖句:「まして、私は、この大きな町ニネベを惜しまないでいられようか。」(4:11)

鍵となる言葉:「備える」(1:17, 4:6, 7, 8)

